No.130
2017
Autumn

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication

CONTENTS

八戸工業大学

p2−3 学園祭／東北学生アーチェリー優勝／青い森信金と連携協定締結／国際会議で最優秀賞／新疆大学訪問／海洋環境教育公開講座／マイクロプラスチックごみ調査

p4−5 若年者ものづくり競技大会／2017女子会開催／EV エコラン大学生の部優勝／ソーラーカー活躍／2017学チャレ採択／科学の魅力発信／オープンキャンパス・入試対策講座／サークル紹介／縄文デザインプロジェクト／日本機械学会東北支部会開催

p6−7 JICA 青年研修事業協力／農業分野で IoT／e-Navi 紹介／八戸工高と連携事業／前期技能検定合格者／同窓会開催／保護者懇談会／平成30年度入試日程／彩才祭 PR ／アジア研修生受け入れ／来学紹介／行事予定

p8−9 えがおキラキラ　ゆめいっぱい !!

八戸工業大学第一高等学校

p10−11 第59回体育祭／体験入学／部活動体験・見学会／全国高等学校総合体育大会／全国高校ボウリング選手権大会／全国高総文祭 JRC ／ドローン講習会／ものづくり産業人材育成事業／ボランティア活動／薬物乱用防止教室

八戸工業大学第二高等学校

p12−13 附属中学校 H30年開校／県英語暗唱・弁論大会最優秀賞獲得／演劇部地区予選会最優秀賞獲得／コンピュータ室新機種導入／みやぎ総文祭／ボランティア活動／ALT ノア・リー先生／県南 PR ポスター展示式／ファッション甲子園

さくら幼稚園

p14−15 なかよしさい／卒園児からのメッセージ／ようちえんってこんなところ／とらんぽりん

p16 理事会・評議員会報告

Mobile & iphone & Android
◀◀◀モバイルサイトへアクセス

デザイン　竹林裕一郎（感性デザイン学科３年／六戸高）

「一」から造る私たちの祭り

10月７日・８日、第45回八戸工業大学学園祭を開催しました。テーマである『「形」～一から造る物語～』は、日々、八戸工業大学がモノづくりを通して地域・社会に貢献せんとする心意気をイメージしています。

45周年の今年、開催したキャンパスコンサートは、大勢の来場者を迎え躍動感と熱気にあふれ、大成功のうちに終了しました。実行委員会では、学園祭で新たなことに挑戦してきた先輩方を見習い、後輩につなげていくことを目標にしました。皆さん、楽しんでいただけましたでしょうか。ご来場ありがとうございました。

学園祭実行委員長　大髙　貴文

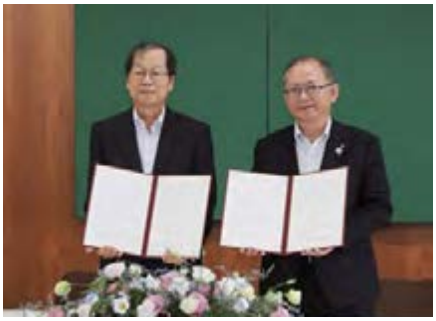
田沢君、東北学生アーチェリー個人優勝

８月23日・24日、宮城県仙台市秋保森林スポーツ公園で行われた「2017年度第49回東北学生アーチェリー個人選手権」において、本学土木建築工学科１年田沢青輝君（三本木農高／写真中央）が優勝に輝いた。

田沢君は、１日目予選ラウンドでは出だし好調であったが、４位で予選を通過。２日目決勝トーナメントを勝ち抜いてみごと優勝杯を手にした。「２日目のトーナメントで自分の弱点を意識して修正できたことが結果につながった。高校時代を通じて東北大会個人優勝は初めてで、とてもうれしい。」と感想を述べた。田沢君は、10月１日、山形大学で開催の2017年度第49回東北学生アーチェリー新人選手権大会でも優勝を収めた。（長谷川学長／写真左、畑中監督／写真右）

～地域の発展と産業の振興に貢献～
青い森信用金庫と連携協定締結

７月25日、長谷川明学長（写真左）と青い森信用金庫益子政士理事長（写真右）は、青森県内における地域の発展と産業の振興に貢献するため、協定書に署名、連携協定を締結した。青い森信用金庫は大学との連携を結ぶのは今回が初めて。本学が金融機関と協定を結ぶのは五件目となる。青い森信用金庫は、金融機関として地元産業界とのつながりから企業の技術的なニーズを掘り起こし大学につなげ、その情報をもとに大学は企業に対して生産技術の相談や情報交換・支援等を行う。今回の締結で、両者はより一層地域の発展と産業の振興に連携協力していくことを確認した。



藤岡教授、IEEEチェコ国際会議で最優秀賞

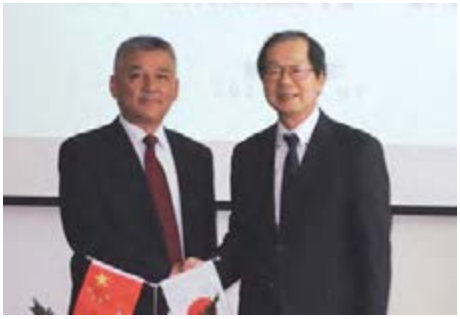
７月３日～５日に開催されたIEEE チェコスロバキア支部主催の国際会議「International Conference on Information and Digital Technologies 2017」において、本学システム情報工学科藤岡与周教授らが発表した論文が最優秀講演論文賞（Best papers award）３件の一つに輝いた。

受賞した論文題目は「A Dynamically Reconfigurable VLSI Processor with Hierarchical Structure based on a Micropacket Transfer Scheme」である。この研究は、コンピュータの演算回路やそれらの接続をプログラム実行中に必要に応じて作り替えることにより、演算性能を飛躍的に向上させるという動的再構成の概念が基本となっている。今後、様々な応用や実用化が期待されている。

迫井准教授、国際会議でBest Paper Awardを受賞

土木建築工学科迫井裕樹准教授が、９月７日・８日に東京で開催の国際会議「The 8th Asia Pacific Young Researchers & Graduates Symposium」において、Best Paper Award を受賞した。受賞した論文題目は、『Fire Damage Assessment of Concrete Using Air Permeability』である。これは、火災など高温にさらされたコンクリートを対象として、損傷の広がりを非破壊試験の一つである表層透気試験により評価・診断する方法を検討したものであり、併せて硬化コンクリートの物性変化（実際の劣化状況）やその後の耐久性予測を検討したものである。

新疆大学訪問



９月５日～10日、協定を結んでいる中国の新疆（しんきょう）大学を長谷川明学長に同行し訪問しました。訪問の主な目的は、学術交流協定の延長手続きと学術講演、キャンパス視察等です。本学と新疆大学とは2004年に学術交流協定を締結し、それ以降２名の留学生が本学大学院の博士課程を修了しています。また、現在も２名の留学生が博士課程に在籍しています。協定延長の署名式では、新たに就任されたウェイリ・パラティ学長（写真左）より、これまでの留学生指導と交流に対し感謝の意が述べられました。また、長谷川学長からは両校の交流の継続的な発展への期待が示されました。新疆においても中国の経済発展は目覚ましく、両校の多様な産業分野での交流促進が望まれます。

阿波　稔（学務部次長）

バイオ環境工学科公開講座
～青森県と環境教育促進へ～

８月20日、八戸市水産科学館マリエントにおいて、本学基礎教育研究センター（バイオ環境工学科併任）田中義幸准教授が青森県環境教育促進強化事業として、バイオ環境工学科公開講座「生物多様性大研究！」を実施しました。 講座では、複数の海域で採集されたイワシの稚魚や混獲された海洋生物の幼生を仕分けること（写真）を通じて、多様性を高く維持するためには種数が多いことだけでなく、均等度が高いことも必要であると学びました。また、８名のバイオ環境工学科の学生たちが、それぞれ工夫をこらしながら、参加した子どもたちに生物多様性の説明を行いました。青森県沿岸では、暖流の影響をうけた海域に限定的に小型甲殻類ウミホタルが分布します。ウミホタルが放つ青白い光には、子どもたちだけでなく、保護者の皆さんも大いに興味を持っていたようでした。

環境教育への取り組み
～マイクロプラスチックごみ調査の提案～

本学は国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）および協力機関と連携し、海岸のマイクロプラスチック（５㎜以下のプラスチック片、以下 MP（写真右））ごみ調査に関する参加型環境教育プログラムの研究開発に取り組み始めました。同プログラムは６月上旬に米国で開催された国連海洋会議でボランタリーコミットメント（自発的提案）として登録され、今後国際展開されることを念頭に研究開発を進めていく予定です。

内容としては、MP ごみ調査方法や調査を簡便化するスマホアプリの開発、ウェブサイト上での集約・公開、調査参加やシステム利用を通しての地域環境教育や啓発活動、継続的な運用を目指すものです。

現在、蕪島での現地測量･調査の実施（写真左）、MP ごみの分類･分析方法の開発に着手しており、小中学生にも参加可能な MP ごみ採取方法の開発に取り組んでいる段階です。

橋詰　豊（土木建築工学科　講師）

若年者ものづくり競技大会
～紅一点、田代さん挑戦～

「第12回若年者ものづくり競技大会」が愛知県名古屋高等技術専門校を会場に、７月31日～８月４日開催され、全国から集まった443名が15職種に分かれ、日頃から磨きあげてきた技を競い合った。この大会は、20歳以下の若年者（企業に就業していない学生・生徒）を対象に、技能習得向上と若年技能者拡大を図るために開催されている。本県選出15名の一員として、本学の田代祐葵奈さん（機械情報技術学科１年／八戸工高）は「旋盤職種」31名に唯一の女性として参加した。

田代さんは「普段練習している機械と競技用機械はメーカーが異なり、操作に戸惑った。入賞には至らなかったが、経験のないアクシデントも乗り越えられ、自信につながった。」と話した。今後のさらなる健闘と成長が期待される。

EV エコラン大学生の部優勝

野田研究室は、学生主体で電気自動車を制作・改良し、「2017電気自動車エコラン競技大会 in SUGO」に今年も参加した。この大会は、全長3.7㎞、高低差70m、最大傾斜10%のコースを、バッテリー４個で、２時間で走れる周回数を競うものである。最大周回数の記録更新と、大学部門優勝を目標に、回生電力を電池に戻すNDL-1st号とキャパシタに蓄電するNDL-2nd号の２台で大会に臨んだ。

大会当日は晴天に恵まれ、２台とも快調に走行したが、路面状況の影響かNDL-1st号はパンクでリタイア。NDL-2nd号は順調に周回を重ね大学部門優勝のトロフィーを獲得できた。この大会で体験できた課題発見、解決策検討と迅速な実行の重要性を、今後に生かしていきたい。

鈴木　友康（機械情報技術学科４年／八戸北高）

2017女子会開催

学年・学科の垣根を越えた女子学生の交流をはかろうと、７月６日本学メディアホールにて「秘密の女子会～学年の壁を越えて～」が開催された。女子会は大学生活に慣れ始めた１年生と上級生の交流の場として学生実行委員が企画運営し、今年３年目を迎える。当日はキャンパスライフや勉学の悩み、サークル活動や大学へ環境改善等の意見が出されるなど活発な交流会となった。また、参加した教職員に対して、研究や業務内容、プライベートな事柄についても学生から質問が飛び交い、貴重な時間となった。

ソーラーカー活躍

８月８日～11日、秋田県大潟村で25回目を迎える「ワールド･グリーン･チャレンジ･ソーラーカーラリー」が開催され、全国から４クラス17チームが参加した。本学佐々木幹夫教授率いる学生チームはチャレンジャー・クラスに唯一出場、最後まで走り切って優勝を収めた。また、環境に配慮した車体づくりが評価され特別賞「古河林業賞」を受賞した。この大会は1993年から行われ、本学チームは開催当初から参加。厳しい大会規定の中にはバッテリー、車体、ドライバーの健康管理もあり、これらを克服して継続的に出場している。

「学生チャレンジプロジェクト」採択決定！

今年度は例年より多い団体の応募があり、14団体が学生チャレンジプロジェクトに採択された。今年度の取り組みは、地域資源に着目したものや地域貢献に係わるものが多く、様々な学科の学生で構成されたチームの継続的な取り組みも少なくない。今後の活発な学生活動に期待する。

団体名	プロジェクト名
新聞研究会	八戸の活性化に向けた学生新聞の取材・編集
ADL　（建築デザイン研究部）	津軽地方の大石武学流庭園の調査と普及活動
ばっちこい青春	四季折々プロジェクト
えにし	「書」で交感する、墨の縁（えにし）
縄文デザインプロジェクトチーム	縄文デザインプロジェクト
HIT Team たねちゃん	青森の活性化に貢献できるICT機器の開発と地域連携活動
ドローン研究会	ドローン空撮プロジェクト
裂織プロダクト	裂織 mob. プロジェクト
ぐっ job advanced	Shinkansen days ～在来線から新幹線、そして未来へ～
宇宙工学同好会	CANSAT プロジェクト
八戸工業大学硬式野球部	岩手県三陸地方での野球教室ならびに階上町での雪かきによる地域支援プロジェクト
どっちびー	まちをキャンバスにする。プロジェクト
K科１年有志	縁側プロジェクト
食品研究会	食による地域おこしと食育活動

科学の魅力を地域に発信
～「青少年のための科学の祭典2017」八戸大会参加～

８月５日・６日、「青少年のための科学の祭典2017」八戸大会が八戸市視聴覚センター児童科学館を中心に開催された。本学からは、ADL（建築デザイン研究会）「パスタでわかる建築構造」（写真左）、食品研究会「オレンジではんこを作ろう！」（写真右）など学生４チーム、教職員・学生 OB 有志合わせて15テーマの出展と学生ボランティアの参加があった。出展した学生チームは今年度の「学生チャレンジプロジェクト」にも採択されており、「科学のおもしろさを子ども達に伝えたい」とユーモアを交えて体験指導をしていた。

夏のオープンキャンパス・秋の入試対策講座開催

７月23日、８月５日とオープンキャンパスが開催され、多くの高校生や保護者の来場をいただいた。各イベントでは熱心に説明を聞いたり体験を楽しんだりする参加者の姿が見られ、大学の魅力が存分に伝えられたようである。

また、10月７日・８日、本学にて受験に役立ててもらおうと入試対策講座６科目が開催された。今年も多くの高校生が参加し、真剣に取り組む姿が見られた。

サークル紹介

ソフトボール部

９月17日、ソフトボール部創部40周年記念祝賀会と交流試合を行った。全国各地から集まったOBはレジェンドチームを結成。11－10でレジェンドチームが現役チームに勝利した。八戸プラザホテルで盛大に開かれた祝賀会では、歴代ユニホームを前に今までつないできた40年の思い出話に花が咲いていた。OBからバックネットとなるゲージを寄贈していただき、現在のチームで早く一勝をあげてOBに報告できるように練習に励もうと誓った。

主将　**渡邉　秀生**（土木建築工学科３年／宮城・仙台城南高）

茶道愛好会～茶々～

茶道愛好会では、普段学ぶことのできない日本の伝統文化に触れ、茶道をする上で大切な礼儀作法などを身につけるべく、毎週稽古に励んでいます。毎年催される学園祭や彩才祭などの行事では、訪れる方々にお抹茶を振る舞い、お点前を披露します。また、海外の方々と茶道を通して交流する機会もあります。マレーシア交流会では、他の国の文化を学び、日本の文化を知っていただく良い機会となりました。今年度新入生が入部し、部員は計25名となりました。多くの方々の前でお点前の披露ができるよう、部員一同、より一層稽古に励みたいと思います。

部長　**長谷川舞実**（感性デザイン学科３年／弘前工高）

縄文デザインプロジェクト

８月20日、感性デザイン学科の学生で構成する縄文デザインプロジェクトチームが、第22回是川縄文まつりに参加し、是川縄文館にてワークショップ、オリジナルグッズ販売を行った。本活動は、平成29年度の学生チャレンジプロジェクト助成および平成29年度八戸市学生まちづくり助成を受けて行われている。縄文の文様をモチーフにしたワークショップやオリジナルグッズの販売を通じて、デザインの力で八戸の縄文文化を一般の人たちへ広く伝え、興味を持ってもらうことを目的としている。当日は特に小さい子どもの参加者が多く、学生が考案したワークショップを楽しんでいた。

東方　悠平（感性デザイン学科　講師）

機械学会東北支部 秋季講演会を開催

日本機械学会東北支部第53期秋季講演会が、９月30日、本学を会場にして開催された。講演会では、本学学生の発表を含む機械工学全般にわたる71件の一般講演が四つの講演室に分かれて行われた。学会会場設営、当日の受付、会場係等を本学学生が担当した。

また、「八戸と縄文」と題して、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館館長古舘光治氏に特別講演をしていただいた。

JICA 青年研修「カンボジア / 職業訓練」コースを開催

JICA（独立行政法人国際協力機構）が行う青年研修事業のひとつとして、カンボジアの職業訓練に関わる若手リーダー14名が９月20日本学を訪問し、大学における職業訓練教育に関する視察、意見交換を行った。当日は、橋本都副学長の歓迎挨拶等のセレモニーに続いて、大黒正敏機械情報技術学科長による「八戸工業大学における職業訓練教育」の概要説明の後、２級自動車整備士資格取得に向けた学習を行う同学科自動車工学センターの施設設備と実習を見学した。その後、工作技術センターの見学および国家資格である技能検定資格取得教育の実情を視察。また、感性デザイン学科の教育等の見学も行った。質疑応答の時間では、本学教職員に対して大学の教育システム、教育内容に関する質問があった。自動車工学コース学生および技能検定資格取得学生に対しては、資格取得挑戦に至った動機や勉学に対して苦労したことなど、数多くの質問があり、充実した青年研修となった。

農業分野におけるIoTセミナー開催

８月25日、本学は青森県とともに、南部町立中央公民館で、さまざまな機器をネットでつなぐ「モノのインターネット（IoT）」の農業分野での活用について考えるワークショップを開きました。関係者約20人が生産性向上の具体策や、小型無人機（ドローン）の活用、生産工程管理（GAP）の認証に向けた日誌や栽培記録など将来的な可能性を探りました。

e-Navi 紹介

電気にはエネルギーと信号情報という２つの大切な機能がありますが、直接見ることができないことから、不安を覚えることがあります。私達は電気を上手に使いこなしています。この機能は将来の社会にとって益々大切になり、社会の進展に合わせて弛まぬ教育や研究が重要になります。工学部電気電子システム学科では「e-ナビ・スクエア（e-Navi Square）」と呼ぶ情報共有展示スペースを設け、地域の方々、学生、教員など多くの皆さんに学科で行われている活動を知っていただく広場としました。この施設は、電気の魅力をなるべく可視化するように配慮しており、身近な電気現象を通して教育研究の大切さや重要性を体感してもらおうという、いわば電気の今を知るスペースとなっています。

八戸工業高校との連携事業

昨年、連携協定を結んだ八戸工業高等学校の１年生を対象に、ミニオープンキャンパスが７月25日に本学で行われました。生徒の皆さんは、学内見学や学科での模擬講義を体験し、質疑応答の時間では、大学生活について積極的に質問する姿も見られました。本学への理解を深めてもらう、良い機会になったと思われます。

国家検定「2017年度前期技能検定試験」合格者

◇機械加工　マシニングセンタ作業3級（4名）
乙供大河（４年／八戸工高）、坂川優太（４年／岩手･福岡高）、橋本樹（４年／岩手・盛岡南高）、米澤美鈴（４年／岩手・西和賀高）

◇機械保全　機械系保全作業3級（28名）
谷坂達哉（３年／三戸高）、牧野竜也（３年／八戸学院光星高）、茂木憲人（３年／秋田･大館鳳鳴高）、山田涼輔（３年／八戸工大一高）
阿部貴之（２年／岩手・水沢高）、板橋洸太（２年／八戸学院光星高）、上野泰聖（２年／八戸工大一高）、蛯名雄真（２年／八戸北高）、菅野真也（２年／八戸工大一高）、坂本遼（２年／八戸工大一高）、佐藤翔太（２年／秋田・横手城南高）、佐藤朋輝（２年／宮城・佐沼高）、佐野史知（２年／五戸高）、清水蘭丸（２年／八戸工大一高）、高橋乃都（２年／秋田・秋田北鷹高）、田中雅人（２年／田名部高）、田村亮平（２年／八戸工大一高）、西野璃矩（２年／十和田工高）、根本知征（２年／福島・聖光学院高）、橋本祥苑（２年／八戸工大一高）、古澤遼（２年／田名部高）、増尾彰斗（２年／岩手･軽米高）、森越智也（２年／八戸工大一高）
及川慧真（１年／岩手・水沢高）、續石麗人（１年／八戸工高）、藤嶋章平（１年／八戸工大一高）、船水洸（１年／弘前工高）、渡辺泰正（１年／八戸工大一高）

同窓会開催

10月７日、八戸グランドホテルにて「八戸工業大学第17回同窓生の集う会」が開催され、各地から卒業生や退職教職員など懐かしい仲間が集まり、秋の夜長、旧交を温めました。また、北海道支部総会が７月22日札幌ガーデンパレスで、関東支部総会が９月２日アルカディア市ヶ谷で、北海道道南部会総会が９月23日法華倶楽部函館で、東北支部総会が10月21日ホテルレオパレス仙台で、秋田支部総会が10月21日協働大町ビルで行われました。

北海道支部総会

関東支部総会

第17回同窓生の集う会

☆住所変更など連絡は、同窓会本部事務局まで
E-mail：dosokai@hi-tech.ac.jp

保護者懇談会

９月上旬、本学、青森市、弘前市、秋田市、盛岡市、仙台市の６地域で保護者懇談会が実施された。教員からは、学生の学修、学業成績、就職状況など説明があり、保護者からは就職支援や進路の相談など和やかに懇談が行われた。八戸会場では保護者を対象に、㈱マイナビ高出実氏による就職支援講演会が実施され、多くの来場者が熱心に耳を傾けていた。

平成30年度入学試験日程

入試区分	クール	エントリーカード受付期間（必着）	面　談　日
ＡＯ入学試験	第２クール	11月17日（金）～11月24日（金）	12月２日（土）
	第３クール	１月29日（月）～２月２日（金）	２月９日（金）
	第４クール	３月１日（木）～３月９日（金）	３月16日（金）

入　試　区　分			願書受付期間（必着）	試　験　日
推薦入学試験	指定校制		11月１日（水）～11月８日（水）	11月18日（土）
	公募制（他大学との併願を認める）		11月29日（水）～12月13日（水）	12月19日（火）
一般入学試験		前期	１月４日（木）～１月25日（木）	２月２日（金）
		後期	３月１日（木）～３月12日（月）	３月22日（木）
大学入試センター試験利用入学試験		前期	１月４日（木）～１月29日（月）	平成30年１月13日（土）・１月14日（日）の大学入試センター試験
		中期	２月１日（木）～２月16日（金）	
		後期	３月１日（木）～３月20日（火）	

文化会主催

彩才祭

11月11日（土）～12日（日）
八戸ショッピングセンターラピアにて
入場無料

アジア研修生受け入れ

文部科学省「原子力研究交流制度」によるアジア研修生として、モンゴル中央地質研究所原子力物理分析エンジニア Zuzaan Batsuren さん（写真中央）、中国環境保護部原子力・放射線安全監査北東地域事務所原子力施設棟管理技術館 Liu Weili さん（右から２人目）が来日した。原子力安全工学などのゼミや実験、学会・フォーラム等への参加やエネルギー関連施設の視察など研修を行う。

大学見学ありがとうございます

・七戸高校１学年
・八戸工大二高１学年
・あおば高等学院全学年
・風間浦中学校１、３学年
・八戸工大一高保護者
・盛岡工業高校保護者
・大湊高校１学年
・百石高校２学年
・五所川原工業高校１学年
・弘前工業高校１学年
・大館中学校１学年
・板柳高校保護者

（４月から10月来学分）

見学会は随時受け付けております。
お気軽にお問い合わせください。
◇お問い合わせ先：0178－25－8000（入試課直通）

行事予定　11月～１月

11月11日（土）～12日（日）	「彩才祭」inラピア
18日（土）	推薦入試（指定校制）
12月２日（土）	ＡＯ第２クール
19日（火）	推薦入試（公募制）
25日（月）～１月５日（金）	冬季休業
29日（金）～１月４日（木）	年末年始窓口休業
１月13日（土）～14日（日）	大学入試センター試験
24日（水）～30日（火）	後期定期試験期間
29日（月）	開学記念日

えがお キラキラ ゆめ いっぱい!!

第59回 体育祭

９月１日、第59回体育祭が開催された。前日は、天候の悪化により室内での練習となったが、当日は練習不足を吹き飛ばすように生徒一人一人が、気迫みなぎるプレーで熱戦を繰り広げ、各種目に一喜一憂、競技が進んだ。前日とは打って変わって澄み渡る青空の中、一勝負ごとに歓声や笑いが満ちあふれた。青軍が赤軍との接戦に競り勝ち、２年ぶりの優勝となった。

体験入学

８月17日から19日までの３日間、本校で中学生の体験入学が行われた。

中学生はAコース（普通・情報・電子通信・電気）か、Bコース（普通・機械・建築・土木）のどちらかを選択して体験した。体験内容は、普通科は４コース改編の説明、エジソン電球実験、プログラミング入門、電子部品制御、鉄を切る体験、ミニテトラポット制作、耐震構造の家の紙模型作成などが紹介された。また、普通科コース改編の保護者説明会も並行して開催された。

中学生は、どの体験も楽しかったと笑顔で本校を後にした。

部活動体験・見学会

８月20日、今年度第１回目の部活動体験見学会が開催された。今回は、各中学校から258名の生徒の他、保護者も多数参加するなど本校の部活動の取り組みに対する関心の高さが感じられた。参加した中学生からは、「緊張感があり、迫力がすごかった。」、「部員一人一人の挨拶や礼儀がしっかりしていて格好良かった。」などの感想があり、帰りの際は皆満足そうな表情を浮かべていた。

全国高等学校総合体育大会

はばたけ世界へ 南東北総体2017

「繋がる絆　魅せよう　僕らの若き力」

平成29年度全国高等学校総合体育大会には水泳部、ソフトテニス部（男女）、レスリング部、自転車競技部、ウエイトリフティング部、登山部が青森県代表として出場。山形県上山市の三友エンジニア体育文化センターで行われたレスリング競技では、60kg級で小川航大君（進学コース３年／十和田東中）が３位入賞、自転車競技では小笠原一真君(機械コース３年／白銀中）がスクラッチで第７位入賞を果たした。

（写真提供／デーリー東北新聞社）

第41回全日本高校ボウリング選手権大会

７月31日から８月２日にかけて、第41回全日本高校ボウリング選手権大会が神奈川県川崎市・川崎グランドボウルで開催された。西山響君（建築コース３年／八戸一中（写真中央右））は予選二回戦からトップを譲らず、初の栄冠を獲得した。

（写真は理事長（写真中央左）表敬訪問）

「みやぎ総文2017」に参加して

８月１日から３日にわたり、宮城県多賀城市の東北歴史博物館で行われた、第41回全国高等学校総合文化祭「みやぎ総文2017」のボランティア部門に本校から初めてＪＲＣ部部長の小坂朋也君（総合コース３年／五戸中）が参加した。

初日は全国から集まった57校の活動報告、２日目はフィールドワークとそのまとめ、最終日はフィールドワーク研修報告会と記念講演という内容だった。

この３日間を通して、参加した生徒はＪＲＣ活動やボランティア活動の幅広さ、各地域における文化の違いを感じるなど、多くのことを学ぶことが出来た。

青森県三八地域県民局主催
「地域ぐるみによる三八地域ものづくり産業人材育成事業」

８月９日、八戸ポータルミュージアムはっちにて、株式会社Ｊサポート主体による「地域ぐるみによる三八地域ものづくり産業人材育成事業」の事前ワークショップが開催された。

この事業では、生徒や学生を対象に地域のものづくり企業の魅力を伝えるための勉強会や、企業との協同による企業の魅力を伝える情報発信ツールである動画の制作や情報発信なども行っている。生徒と企業の相互理解を深め、地元就職を希望する生徒の増加や、企業にとっては若年層の雇用確保の機会の創出など、人材育成とものづくり産業の活性化に繋げることを目的としている。

本校からは、橋本沙弥佳さん（情報コース２年／湊中）、外崎竜馬君（電子通信コース２年／五戸中）、鈴木零君（情報コース２年／市川中）、佐々木魁人君（土木コース２年／八戸二中）、須郷央志君（土木コース２年／鶴田中）の５名の生徒が参加をした。（写真は、チームに配布された携帯端末で動画の制作例を見ている様子。）10月18日には素材集めのために企業に出向いた。来年１月には、プロジェクト全体での発表が行われる予定である。

第2回ドローン講習会

９月９日、フライトムービー社の直江昌宣氏を講師として、第２回ドローン講習会を実施した。

1. 目的　ドローンに関する正しい知識と安全な操縦方法を習得し、卒業後ドローンを活用できる人材育成を目的とする。
2. 目標　ドローン検定３級合格のための基礎知識と基礎操縦技術を習得することを目標とする。
3. 対象　２年土木コースの受講希望者、２年工業科受講希望者
4. 場所　午前：第一コンピュータ室、午後：八戸工業大学ラグビーグランド

参加した生徒は、磯島直斗君（土木コース２年／鮫中）、新田泰士君（土木コース２年／八戸三中）、中里世成君（土木コース２年／八戸二中）、堀内光平君（土木コース２年／湊中）、濱久保佑君（機械コース２年／道仏中）、横町優成君（機械コース２年／長者中）、村井俊介君（機械コース２年／白山台中）、佐々木琉礼君（情報コース２年／八戸一中）、そして、課題研究でドローン製作中の山内淳君（情報コース３年／三条中）、山中晴裕君（情報コース３年／千葉・風早中）である。午前は、座学を行った。舘建設コンサルタントの小渡寿和氏からドローンを利用した空撮測量の講義もあった。

午後は、待ちに待ったドローンの実技講習で、八戸工業大学に移動しての実習だった。しかし、移動して間もなく、雷雨により一時中断したため、場所を本校の第二体育館に移して実施した。

「ちびっこマラソン」でボランティア

７月２日、ユニバースカップ2017第17回八戸ちびっこマラソンが行われ、本校アイスホッケー部員37名がボランティアスタッフとして参加した。受付、伴走、タイム計測器回収および給水所での補助などを行った。さわやかな天候のもと、参加者の熱気あふれる走りをサポートし、他のスタッフとともに大会運営に貢献した。

薬物乱用防止教室

７月４日、第一体育館で全校生徒対象の薬物乱用防止教室が行われた。講師には、本校薬剤師で青森県薬物乱用防止指導員の小池智彦先生をお招きし、「薬物乱用が心身に与える影響」というテーマで覚せい剤の恐ろしさや、繰り返し使用してしまう薬物の依存性など、多くのことを学んだ。生徒は真剣に話を聞き、最後は生徒会長の大坂敏輝君（進学コース３年／小中野中）が生徒代表挨拶として「絶対に薬物に手を出さない」ことを誓った。

八戸工業大学　第二高等学校附属中学校
平成30年４月１日開校

僕らが拓く、僕らの世界。私たちが創る、私たちの未来。

八戸工業大学
第二高等学校附属中学校
併設型中高一貫教育校　一貫コース

本校では来年度、附属中学校を開校します。進学重視型の中高一貫校として、「確かな学力」と「生きる力」を育み、個々の生徒が目標とする難関大学や医学部医学科への現役合格を果たすとともに、変化の激しいこれからの社会を生き抜くたくましさを身に付けるよう、教育活動を展開します。地球社会の未来に貢献する地域や日本のリーダーとなる人材を育てます。

【教育活動の特色】

1．隔週土曜日に授業を実施し、公立中学校より大幅な授業時間数を確保します。
2．併設中学校に認められる教育課程基準の特例を利用して、高校のカリキュラムの先取を実施します。
3．隣接する八戸工業大学と連携して、サイエンス教育の充実に力を注ぎます。またICT教育や探求型学習の実施を推進します。
4．サイエンス教育、グローバル教育、ヒューマン教育を３本柱とする教育プログラムを推進します。

平成30年度募集定員60名（男・女）

【第１回入学検査】
募集定員／45名（男・女）
検 査 日／平成29年11月25日（土）
検査科目／国語、算数、融合問題（社会・理科）
面接（簡単な英会話を含む）

【第２回入学検査】
募集定員／15名（男・女）
検 査 日／平成30年１月20日（土）
検査科目／国語、算数、融合問題（社会・理科）
面接（簡単な英会話を含む）

県英語暗唱・弁論大会 最優秀賞獲得

９月９日、平成29年度青森県英語暗唱・弁論大会が青森市で行われた。本校からは暗唱の部に藤村笑珠子さん（美術コース１年／新郷中）、創作の部に吉田涼那さん（美術コース１年／市川中）、佐々木龍也君（カレッジコース２年／白銀中）、才神玲奈さん（美術コース３年／三条中）の４名がフルエントリーして大会に臨んだ。４名それぞれが力を十分に出し切り手応えを感じての結果待ちであった。その中で創作の部の才神玲奈さんが１名枠の最優秀賞に見事に輝き、東北大会への出場権を獲得した。内容・表現力において他の出場者を圧倒した結果であった。

演劇部地区予選会 最優秀賞獲得

９月９日・10日に三八・上北地区高等学校演劇合同発表会兼県大会予選会が開催され、二高演劇部は最優秀賞を獲得し、10月21日・22日に八戸市公会堂文化ホールで行われる、県大会へ出場が決まった。演劇の盛んな三八・上北地区は激戦区でどの高校も特色のある演劇を上演していたが、その中でも、才神玲奈さん（美術コース３年／三条中）作の「人間はゲスイくらいがちょうどいい」という脚本は、シリアスなテーマをコメディータッチでオブラートに包み表現していたと評価された。ここ３年間で２回最優秀賞を獲得しており、部員達は、地区大会の反省を活かし、県大会でより楽しめる劇にしていこうと、内容や演出をブラッシュアップし、練習に取り組んでいる。

第1コンピュータ室 最新機種導入

本校では、第１コンピュータ室のパソコン全40台を、windows10が搭載されたパソコンに一新した。パソコンだけではなく生徒用の付属モニターとして、サイドにモニターを20台配置し、教員の画面を映すことで席の後ろから見えづらい文字なども見えるように改善された。情報科目だけではなく、総合学習や放課後講習、個々の進路学習においても大きく貢献している。情報リテラシーを育てる意味でも、問題に対する解決方法を知るためのアイテムとして、様々な場面で活用していく。生徒一人一人が夢を叶えて、大きく羽ばたくための一助となることを願う。

2017みやぎ総文　全国高等学校総合文化祭参加

美術工芸部門（8月1日・2日）

野口麟さん（美術コース3年／小中野中）と荒川涼さん（美術コース3年／堀口中）の2名が、仙台市で開催された第41回全国高総文祭美術工芸部門に参加した。青森県代表の7名に選出されたもので、全国高総文の出場は11年連続となる。各県から選ばれた作品は完成度が非常に高かった。講演会及び講評会は、漫画家の荒木飛呂彦氏を講師に招いて行われた。交流会では、生徒達が対話しながら鑑賞会とワークショップを行った。出場した2名は様々な取り組みで大きな刺激を受け、有意義な大会となった。

囲碁部門（7月30日・31日）

宮城県白石市のホワイトキューブ白石において、全国高等学校総合文化祭囲碁部門大会が行われた。全国から約250名の各都道府県代表が参加して、スイス方式で6回戦まで変則リーグ戦で行われた。

本校からは、中村真里奈さん（美術コース3年／小中野中）が青森県代表として個人戦に出場した。残念ながら入賞はならなかったが、6回戦を全力で戦い抜いていき交流も深め、棋力も大きく向上したものだった。今後、囲碁部は県高総文、県新人戦と大会が続くが、いずれも東北大会、全国大会へつながる大会であり、下級生の活躍も期待される。

ボランティア活動

発掘された日本列島2017 高校生ボランティア

8月5日～9月18日の間、是川縄文館で「発掘された日本列島2017」展（文化庁等主催）が開催された。同館から本校に対し、説明を行う高校生スタッフの依頼があり、1年生27名、2年生36名、3年生14名、計77名が参加した。事前の説明会や研修会を踏まえて説明を行った。生徒は爽やかに、元気に、二高生らしく対応し、来館者の方々からとても感謝され、人生のよき糧とすることができた。八戸市教育委員会教育長からは、生徒個々に感謝状が授与された。

鮫・蕪島観光ボランティアガイド

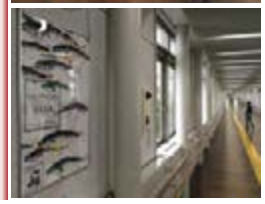
今年度で5年目となる鮫・蕪島観光ボランティアガイドは、八戸南高校の閉校に伴い本校が引き継いだ取り組みである。今回は8月11日・12日、蕪島、葦毛崎展望台、種差海岸の三か所でボランティアガイドを行った。

両日ともに天候が優れず、12日にはやむを得ず中止したエリアもあったが、県内外を問わず訪れた多くの観光客に対して自作のスケッチブックを手にガイドした。地域の歴史や文化に触れ、多くの人たちとふれあい、貴重な経験と思い出ができた二日間であった。

Noah　Lee 先生こんにちは

学校法人八戸工業大学のALTとしてノア・リー先生が着任した。ノア先生はアメリカ合衆国イリノイ州シカゴ出身で、イリノイ大学で東アジアの経済について学び、神戸にある甲南大学で短期留学の経験もある。ギターの演奏や写真撮影が趣味とのこと。二高の教員として在籍するが、一高に週2日、さくら幼稚園に月1回出向き、英会話や英語の歌、手遊びなどの指導を行う予定。二高では放課後に誰でも参加できる英会話レッスンも実施する。

県南観光ポスター展示式



8月28日、八戸駅とユートリーの連結通路に青森県南地区の観光をPRするポスターを新しく展示した。これは本校美術コースと八戸市が連携して2005年から続けている。2年に1度作品を交換しており、今回は32点の作品を展示した。

展示式には同コース2、3年生49名が参加した。はじめに大平副市長が挨拶を述べ、生徒代表者が作品の贈呈と挨拶をし、最後に八戸市から本校校長への感謝状が贈呈された。

ポスターの題材は、生徒が各々地元の特産品・観光名所から選んでいる。市内外の幅広い地域の観光ポスターが顔をそろえた。

ファッション甲子園出場

8月20日、弘前市民会館にて「第17回全国高等学校ファッションデザイン選手権大会（ファッション甲子園）」が行われ、葛西七海帆さん（美術コース2年／八戸一中）と水谷祐君（美術コース2年／階上中）、村松聖奈さん（カレッジコース2年／八戸東中）の3人がチームを組んだ。本校は2年連続出場。作品のテーマは「bewitching」で、全身が黒い花で覆われた服と輝くELワイヤーのスカートにより、あやうくも美しい女性を魅惑的に表現し好評を博した。

なかよしさい

「みずヨーヨーつり、たのしいな！」

「よ～く、ねらってねらって…
エイッ！」

「カーズのつぎは、
マリオのおめんも
つくっちゃおう♪」

「わぁ、わたあめおいしそう!!」

～年長組の作品～
「さくらはなびたいかいへ、
ようこそ!!」

今年も学年ごとのテーマのもと、子どもたちが日頃から取り組んできた作品が展示された。絵やデザイン画、立体の製作物など部屋いっぱいに工夫して飾りつけられた。「僕（私）のこれだよ」「上手にできたね」の会話が聞こえ覗くと、褒められてまんざらでもない様子の子、照れた様子の子と様々だった。毎年人気の綿あめや豚汁、ホールでは、お面や輪投げ、くじ引き、園庭では、しゃぼん玉や水ヨーヨー、らくがき、じゃんけん列車などたくさんのコーナーが充実し、終わりを告げる放送が流れると名残惜しそうに「来年も楽しみ」と声を残し帰っていった。今年も時間いっぱい楽しむ姿が見られたなかよし祭となった。

卒園児からのメッセージ

Message

大きなゆめにむかって

「水泳のオリンピックせんしゅになりたい」わたしの今のゆめです。

さくらがまん開の園庭で遊び、花で色水を作ったこと。年長のサマーフェスタで、ドキドキしながら歩いたおばけ大会。冬のソリ遊びやクリスマス会。こわいけれど、がんばって投げた豆まき。本当にいろんなことがあったなぁと思います。小学生になってからは、日よう日いがいは毎日水泳の練習をしています。ようち園の時、顔を水につけるのはいやだったけれど、水でパチャパチャ遊ぶことは大好きでした。お姉ちゃんの練習を見ているうちに、わたしも「もっと速く泳げるようになりたい！ほかの泳ぎもおぼえたい」と思い、練習の日にちをふやしていきました。いろんな大会に出るようになって、速い人や、同い年のライバルを見て「わたしもがんばらなきゃ」と思い、取り組んでいます。大きなゆめにむかってこれからもがんばろうと思います。

八戸市立青潮小学校3年
吉田　華奈さん
（平成26年度卒）

ようちえんってこんなところ

年長　サマーフェスタ

「さくらようちえん よいこの"ひ"をともしましょう!」

すいかわり大会

「このすいか、おっきいよ～♪」

海浜保育

「あおいうみ、とってもきれいだね！」

とらんぽりん ～ある日の保育日誌～

満3歳いちご組　8月29日（火）

昨日に続き、絵の具を使い「自分の顔」を描いた。眉、目、鼻、口をどこに描くかはだいたい理解しているようで、「怒った眉毛」「にこにこの口だよ」などと言いながら思い思いに筆を動かしていた。ただ、筆を上手に持てず、紙すれすれに倒して持っていたので、手を添えて持ち方を教えた。筆がぼさぼさになることもなく、絵の具をつけ滑らかに描くことが出来た。それがおもしろかったようで、髪の毛を描く時は、筆を自由自在に動かし楽しんでいた。

～いちご組 新聞紙遊び～
「うわぁ!! おふろのなかみたぁ～い」

年少組　8月31日（木）

しゃぼん玉遊びをした。最初は、息を強く吹き過ぎて「出来な～い」と言う子もいた。優しくゆっくり吹くように教えると次々と出来るようになった。少ししゃぼん玉が飛ぶと大喜びで、手を伸ばし追いかけていた。「虹色のしゃぼん玉!!」「こっちの方がもっと大きいよ!!」と競う子やお互いのストローの先についたしゃぼん玉をくっつけて遊ぶ子も見られた。吹き方が上手な子は大きなしゃぼん玉やたくさんのしゃぼん玉を次々飛ばしていた。

年中組　9月1日（金）

外遊びをしている時、A君がBちゃんに「僕もごめんね」と謝っていた。原因は些細なことかもしれないが、「僕も・・」ということはお互いに非があるようだ。一学期なら自分のしたことは差し置いて「先生○○君（さん）が○○した」と言いに来ることがあったが。ブロック遊びをしていたC君が「先生これD君が貸してくれた」と嬉しそうに教えてくれた。「D君やさしいね」と声を掛けるとにっこり。そのC君もまた別の子に貸していた。確実に成長しているようだ。

～年長 じゃが芋掘り～
「カレーがいいかな？ ポテトサラダがいいかな？」

年長組　8月25日（金）

昨夜から朝方まで降った雨で海浜保育に行けるか心配だったが、園庭の芝生もほぼ乾いていたので、予定通り出かけられた。子どもたちは通園バスとは違う大型観光バスに乗り込むと「すごい広いね」「いつものと違うね」と大喜び。種差海岸に着き、バスを降りると「海だー」の声が聞こえ、テンションは確実に上がっていた。海をバックに写真撮影をした後は散歩。芝生をごろごろ転がったり、鬼ごっこをしたり、集合の声がかかるまで思いっきり遊んでいた。

蒼穹
Hachinohe Institute of Technology Press SOUKYU　2017(平成29年)　秋号　No.130
[発　行] 学校法人八戸工業大学　http://www.hi-tech.aomori.jp　〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開88-1 ダイヤルイン案内 (0178)25-3111　FAX (0178)25-2769
八戸工業大学　http://www.hi-tech.ac.jp　八戸工大一高　http://www.kodai1.ed.jp　八戸工大二高　http://www.kodai2-h.ed.jp　さくら幼稚園　https://sakura.hi-tech.aomori.jp/

理事会・評議員会

学校法人八戸工業大学は、下記の通り理事会・評議員会を開催して各案件について審議を行い、それぞれ原案通りに承認した。

◇7月26日　理事会

・八戸工業大学の改組に関する件
・八戸工業大学第二高等学校附属中学校学則に関する件
・資産（八戸工業大学第二高等学校運動場用地）の貸出に関する件

◇9月13日　理事会・評議員会

・「学校法人八戸工業大学寄附行為」変更に関する件
・資産（旭ヶ丘職員宿舎跡地）の売却に関する件
・「学校法人八戸工業大学 育児・介護休業等に関する規程」改正に関する件

学校法人八戸工業大学に、新たに中学校が加わります
八戸工業大学第二高等学校附属中学校、平成 30 年 4 月開校

表　紙　さくら幼稚園　秋の遠足～とわだぴあ～
裏表紙　さくら幼稚園　年少組　里　結苑ちゃんの作品
　　タイトル　「ねこのさんぽ」